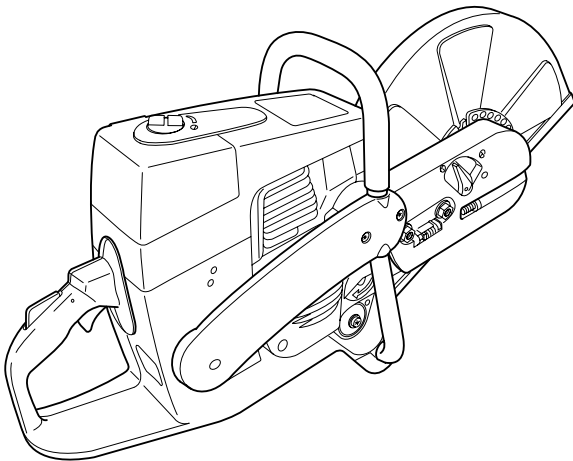


Makita

エンジンカッタ 取扱説明書

305mmモデル DPC6200

355mmモデル DPC7301



目次

シンボルマークについて	2
注意文の [△警告]、[△注意]、[注] に ついて	2
エンジン製品の安全上のご注意	3
●エンジンカッタの安全上のご注意	6
●主要機能	8
●各部の名称及び標準付属品	8
●別販売品のご紹介	9
●使用準備	10
1. ホイールカバーの取り付け方向	
2. 切断砥石の取り付け方	
●運転	12
1. 燃料給油	
2. スイッチの操作	
3. 始動	
4. 停止	
●切断作業	15
1. ホイールカバーの調節	
2. 切断方法	
●点検と整備	16
1. Vベルトの張り調整	
2. Vベルトの取り替え	
3. 燃料タンクフィルタの清掃と取り替え	
4. エアフィルタの清掃と取り替え	
5. スパークプラグの点検と整備	
6. アイドリングの調整	
●メンテナンス表	19
●格納方法	19

このたびはマキタエンジンカッタをお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。



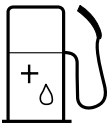







ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただいて、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願い致します。

なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。







シンボルマークについて


- ・製品および取扱説明書にシンボルマークを掲載しております。このシンボルマークの意味をご理解の上ご使用ください。


	ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。		保護めがね、耳栓、保護帽などの保護具を着用してください。
	混合燃料を入れてください。		通気の悪い場所では運転しないでください。
	チョーク、運転、停止切替えスイッチ		燃料の混合、給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどは、タバコを吸わないでください。
	エンジンを停止してください。		燃料の混合、給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどは、火気を近づけないでください。
	固定/解除		砥石の回転方向

注意文の 警告 ・ 注意 ・ 注 の意味について

ご使用上の注意事項は  警告 と  注意、 注 に区分していますが、それぞれ次の意味を表わします。

 警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

 注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、 注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

 注 : 製品および付属品の取扱い等に関する重要なご注意。

エンジン製品の安全上のご注意

- 引火、火災、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「エンジン製品の安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「エンジン製品の安全上のご注意」をすべてよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

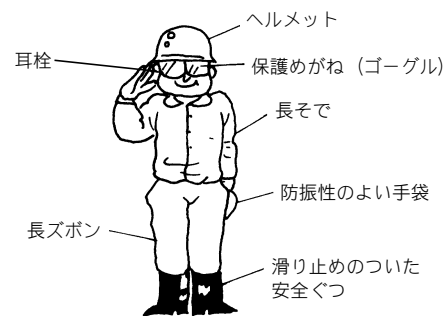
⚠警告

1.ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。

- ・機械の取り扱い知識が不十分な場合、事故の原因になります。



身体を冷やさないような服装で作業してください。



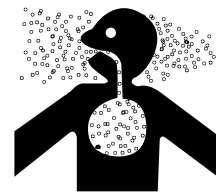
2.事故の原因になります。次のときは機械を使用しないでください。

- ・疲れているとき、身体が不調なとき。
- ・酒類や薬物を飲んで正常な運転操作ができないとき。



4.エンジンの排気ガスは有害です。屋内、トンネル内など通気の悪い場所で、使用しないでください。

- ・通気の悪い場所で使用すると排気ガス中毒の原因になります。



3.使用時は常に防振性のよい手袋、保護めがね、耳栓、保護帽（ヘルメット）を着用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。

- ・けがの原因になります。

また手ぬぐいやタオルを首から下げて作業しないでください。

袖や裾の締まりのよい服装をしてください。

- ・回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。

5.作業場は十分明るくしてください。

- ・暗い場所での作業は事故の恐れがあります。

⚠警告

6.雨上がりなど足元が滑りやすい場所では、使用しないでください。また、常に足元に注意し、バランスが保てる無理のない姿勢で使用してください。

- ・転倒して、けがの原因になります。



7.燃料の取り扱いには十分注意してください。

- ・燃料が肌に付いたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。

8.引火・火災の恐れがあります。

- ・燃料の持ち運びや保管、取り扱いには十分注意してください。
- ・燃料の混合、給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどは、通気の良い場所で行いタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。



- ・燃料の給油および燃料を抜くときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- ・燃料はこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
- ・燃料の給油をした場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも3m以上離れてください。
- ・ガソリン、ガス、塗料、接着剤など引火

性のある物の近くでは、使用しないでください。

- ・マフラの排気口付近は高温になりますので、燃えやすいものは近づけないでください。

9.始動時および使用中には、プラグキャップ部に手を触れないでください。

- ・感電する恐れがあります。

10.使用中、機械の調子が悪かったり、異常音が発生したときは、直ちにエンジンを停止させ使用を中止し、お買い求めの販売店またはお近くのマキタ直営事業所に点検・修理を依頼してください。

- ・そのまま使用していると、けがの原因になります。



△注意

1. 損傷した部品がないか点検してください。
 - ・使用前にねじのゆるみがないか、損傷した部品がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
2. 調節キーやレンチなどは、必ず取りはずしてください。
 - ・付けたままでは飛び出して、けがの原因になる恐れがあります。
3. 騒音に関しては、法令および各都道府県の条例で定める騒音規制があります。状況によって、しゃ音壁を設けて作業してください。
4. エンジンの始動・使用時は、周囲の人や障害物に十分注意して必ず一人で操作してください。
 - ・事故の原因になります。



5. エンジンの始動は、安定のよい場所で行ってください。
 - ・事故の原因になります。
6. 使用を中断したり、移動するときは必ずエンジンを停止させてください。また、エンジンをかけたまま放置しないでください。
 - ・エンジンをかけたままですと、事故の原因になります。



7. 使用時およびエンジン停止直後は、マフラなどの高温部に身体が触れないように注意してください。
 - ・やけどの原因になります。

8. スパークプラグ点検整備時、シリンダー内の残留ガスに引火する場合がありますので、スパークプラグ取り付けネジ部にはスパークプラグを接触させないでください。また、スパークプラグの金属部に触れながらスタータハンドルを引かないでください。
 - ・やけどの原因になり、また感電する恐れがあります。
9. 点検整備する時はエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。また、スパークプラグからプラグキャップをはずしてください。
 - ・停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による、事故の原因になります。



10. 付属品および交換される部品は、必ず指定されたマキタ純正品をご使用ください。
 - ・マキタ純正部品以外のものを使用されますと、事故やけがの原因となる恐れがあります。
11. 長時間ご使用にならないときは、燃料を全部抜き乾燥したきれいな場所に格納してください。



12. いつも安全に能率よくご使用いただくために定期点検をお勧めします。点検修理は、お買い求めの販売店、またはお近くのマキタ直営事業所にお申しつけください。
 - ・修理の知識や技術のない人が修理しますと事故やけがの原因になります。

エンジンカッタの安全上のご注意

●先にエンジン製品としての共通の注意事項を述べましたが、エンジンカッタとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

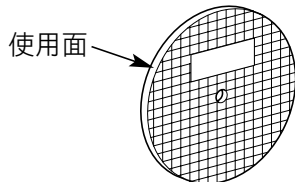
⚠警告

1.ホイールカバーは必ず取り付けて使用してください。

・切断砥石やダイヤモンドホイールが破損したとき、けがの原因になります。

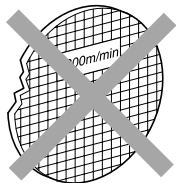
2.切断砥石は最高使用周速度80m/S(4800m/min)以上の正規の砥石を取り付け、正しい使用面で切断してください。側面は使用しないでください。

・正規以外の切断砥石を使用したり、また側面を使用すると切断砥石が破損し、けがの原因になります。



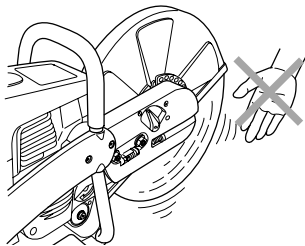
3.切断砥石、ダイヤモンドホイールにひび、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。

・異常があると切断砥石、ダイヤモンドホイールが破損し、けがの原因になります。



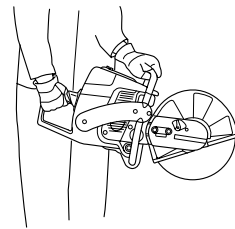
4.回転している刃物類に手や顔、衣服などを不用意に近づけないでください。

・けがの原因になります。



5.機械は両手で確実に保持してください。またハンドル部は常に乾いた状態にし、手が滑らないようにしてください。

・確実に保持しないとけがの原因になります。



6.新しい切断砥石を取り付け、はじめてエンジンを始動するときは、切断砥石の露出部から一時身体を避けてください。

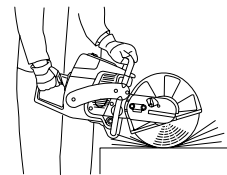
・切断砥石が破損したとき、けがの原因になります。

7.切断中に機械をこじたり、強く押さえたり、無理な操作をしないでください。

・機械に強い反発力が生じたり、また刃物類が破損し、けがの原因になります。

8.切断粉は火花となって飛散するので、引火しやすいもの、傷付きやすいものは遠ざけてください。また切断火花を直接手足などに当てないようにしてください。

・引火や火災、やけどの原因になります。



9.誤って落したり、ぶつけたときは、刃物や機械などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。

・破損や亀裂、変形があると事故の原因になります。

10.〔事業者の方へ〕

といしの取り替え・試運転は、法・規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。

関連法令

労働安全衛生規則 第36条

労働安全特別教育規定 第1条、第2条

⚠注意

1. 試運転を励行してください。

試運転時間は、

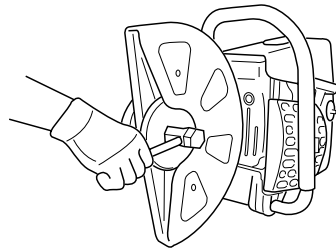
(切断砥石交換のとき …3分間以上
その日の作業始めのとき…1分間以上)

です。

・ 試運転せずに作業を開始すると思わぬ事故の原因になります。

2. 刃物類や付属品は取扱説明書に従って確実に取り付けてください。

・ 確実にないとはずれたりし、けがの原因になります。



3. 指定以外の刃物（丸ノコ刃、チップソーなど）での切断作業はしないでください。

・ 丸ノコとしての保護装置がなく、けがの原因になります。

4. エンジンを始動させる前に、刃物類が地面やその他の障害物に触れていないことを確かめてください。

・ 刃物類が地面やその他の障害物に触れていると事故の原因になります。

5. エンジンが始動すると同時に刃物が回転します。周囲の人や障害物に十分注意してください。

・ けがの原因になります。

6. 切断直後の金属材料は高温になっていますので、触れないでください。

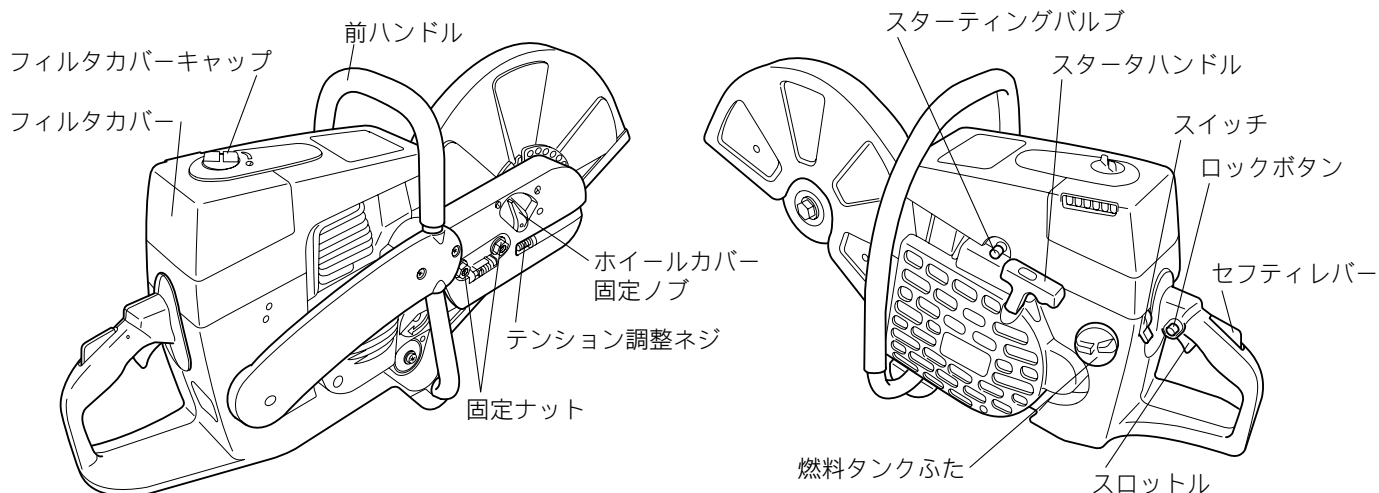
・ やけどの原因になります。

主要機能

主要機能		項目		仕 様	
エンジン	形 式	DPC6200		DPC7301	
	排 気 量	62mL		73mL	
	最 高 回 転 数	9,350min ⁻¹			
	キ ャ プ レ タ	ダイヤフラム式			
	点 火 方 式	フライホイールマグネット			
	ス パ ーク プ ラ グ	NGK BPMR7A			
	始 動 方 式	リコイルスタータ			
	ク ラ ッ チ	自動遠心式			
燃料	混 合 比	25 : 1 (無鉛ガソリン : 2サイクル専用オイル)			
	タ ン ク 容 量	1.1L		1.1L	
砥石軸回転数		4,300min ⁻¹		4,300min ⁻¹	
使用できる 砥石等	切断砥石	寸 法	外径305mm×厚さ3~4mm×内径25.4mm	外径355mm×厚さ3.5~4.5mm×内径25.4mm	
		周速度	80m/s(4800m/min)以上	80m/s(4800m/min)以上	
	ダイヤモンドホイール	外径305mm、内径25.4又は30.5mm	外径355mm、内径25.4又は30.5mm		
最大切り込み深さ		100mm		116mm	
機械寸法(全長×幅×全高)		760mm×290mm×380mm		780mm×290mm×380mm	
質量(砥石無し)		11.7kg		12.7kg	

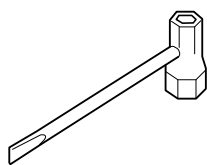
・改良のため、主要機能および形状などは変更する場合がありますので、ご了承ください。

各部の名称及び標準付属品

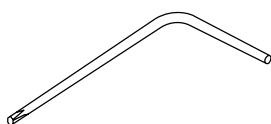


標準付属品

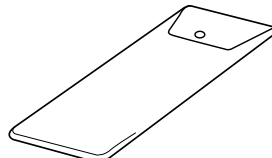
・ボックスレンチ13-19



・星形レンチ



・付属品収納袋



・リング25.4
(外径Φ30.5)



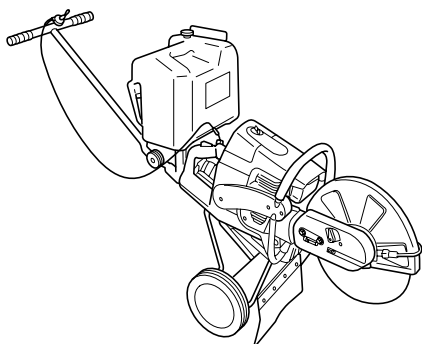
別販売品のご紹介

・切断砥石・ダイヤモンドホイール

種 類	用 途	部品番号 (DPC6200)	部品番号 (DPC7301)
金属用切断砥石	鉄板、鉄筋、鉄骨、鋼管、鋼板、ドラム缶など	A-04880	A-24608
非金属用切断砥石	コンクリートパイプ、コンクリート板、U字溝、 ヒューム管、鋳鉄管など	A-04846	A-24549
ダイヤモンドホイール	コンクリートパイプ、コンクリート板、U字溝、 ヒューム管など	A-04911	A-10643

・トロリーセット品

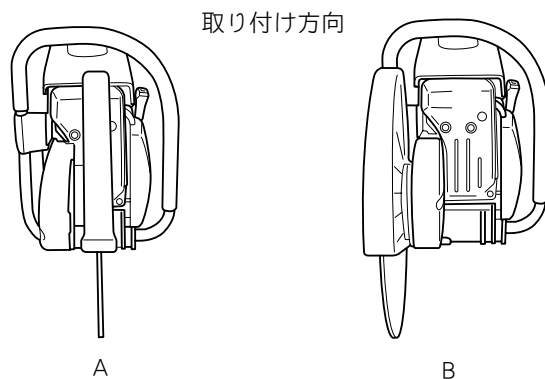
路盤切断用に便利です。



使用準備

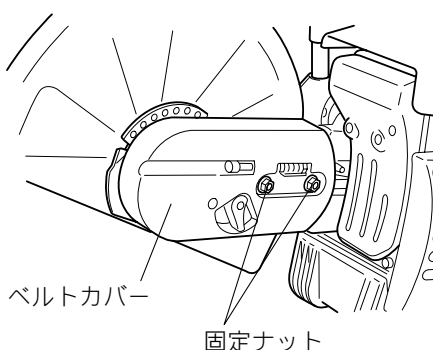
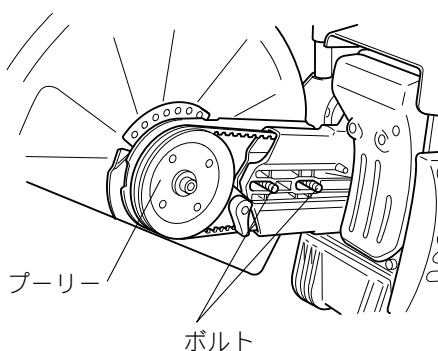
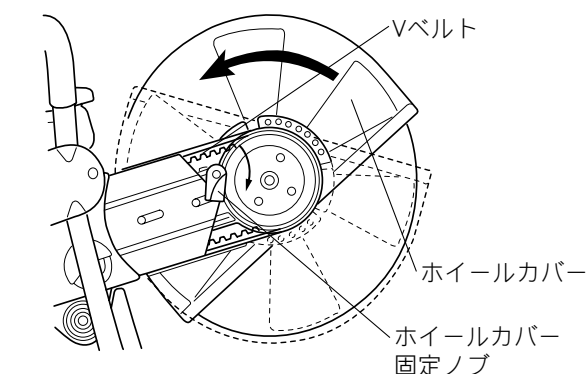
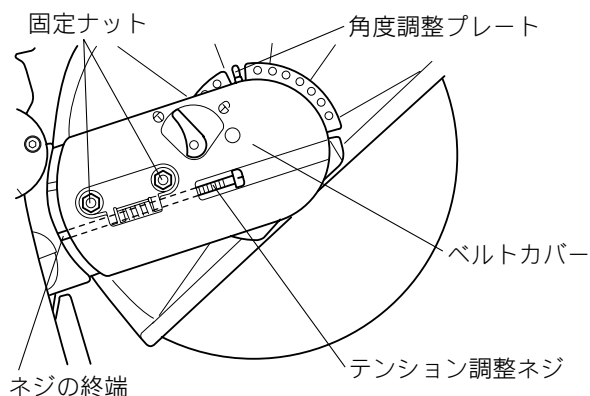
1. ホイールカバーの取り付け方向

- ・本機は切断装置部が、図のAの方向に取り付けてあります。図のBの方向に取り付ける場合は、次の手順で取り付けてください。



Bの方向に取り付ける場合

1. 固定ナットをゆるめ、テンション調整ネジをネジの終端が見えるまで左に回します。
2. 固定ナットを取り外し、ベルトカバーを取り外します。
3. ホイールカバー固定ノブを右図の位置まで右に回し、ホイールカバーを破線の位置まで回転させます。
ホイールカバー固定ノブをもとの位置に戻し、ホイールカバーを少し回して固定します。Vベルトをはずして、切断装置部を本機より取り外します。
4. 取り外した切断装置部を反転させ、ボルトを穴に通し、Bの方向に取り付けます。
Vベルトを再びプーリーに取り付けてください。
5. ベルトカバーをつけ、固定ナットを手で軽く締めつけてください。
テンション調整ネジを回し、Vベルトを張ってください。Vベルトを張り終えたら、固定ナットをしっかり締め付けてください。



2. 切断砥石・ダイヤモンドホイールの取り付け方

⚠警告

ダイヤモンドホイールを取り付けるときは、本機についている矢印とダイヤモンドホイールについている矢印の方向を合わせてください。

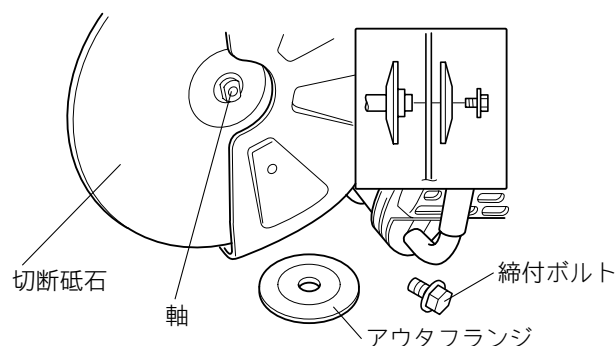
- ・ 矢印に合わせないと、ダイヤモンドホイールの回転方向が逆回転となり、刃先を傷めたり、けがの原因になります。

内径30.5mmのダイヤモンドホイールを使用する場合は付属のリング25.4（外径φ30.5）を必ず使用してください。

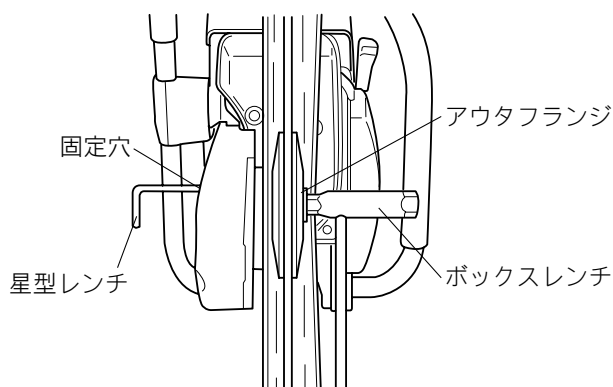
- ・ リング25.4（外径φ30.5）を使用しないと、本機の振動及び作業時の衝撃の原因となり大変危険です。

1. ベルトカバーの穴に星型レンチの柄を差し込み、軸を固定してください。

2. この状態でボックスレンチを使って、締付ボルトを左に回して締付ボルト、アウトフランジをはずします。

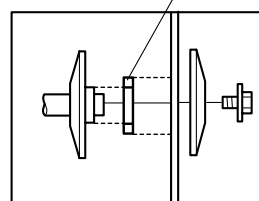


3. ご使用になる内径 25.4の切断砥石またはダイヤモンドホイールを軸にはめ込み、軸とアウトフランジの切り欠き部を合わせ、締付ボルトを右に回してしっかり締め付けてください。



- ・ 内径が30.5mmのダイヤモンドホイールを取り付ける場合には標準付属品のリング25.4（外径φ30.5）を軸にはめ込んでから、ダイヤモンドホイールを取り付けてください。

リング25.4（外径φ30.5）



内径30.5mmのダイヤモンドホイール使用時

1. 燃料給油

⚠警告

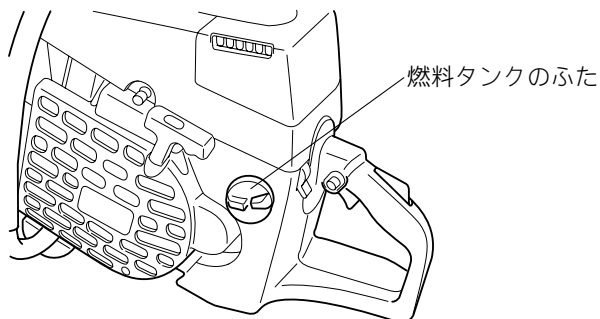
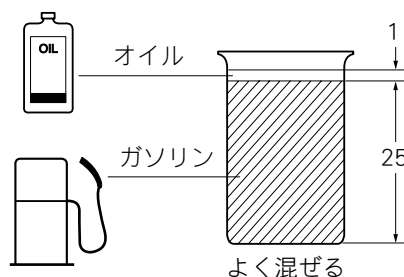
燃料の混合および給油をするときは、必ず次の事項をお守りください。引火・火災の原因になります。

- ・火気のない所で行ってください。また通気のよい場所で行い、タバコを吸ったり、火気を近づけないでください。
- ・燃料給油はエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- ・燃料はこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。

燃料の取り扱いには十分注意してください。

- ・燃料が肌に付いたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。

- ・本機に使用する燃料は、無鉛ガソリンと2サイクル専用エンジンオイルを25：1の割合で混ぜた混合ガソリンです。
- ・無鉛ガソリンに混ぜるオイルの種類や混合する割合が異なると、エンジン不調の原因になりますので指定されたオイルを指定された割合で混合してください。
- ・本機を横倒しにして燃料タンクのふたを開け、こぼさないように注意しながら混合ガソリンを入れてください。
- ・給油が終わりましたら燃料タンクのふたをしっかり締め付けてください。



注

- ・燃料の入っている燃料タンクのふたを開けるときは、ゆっくり開けてください。内圧により燃料が飛び出すことがあります。
- ・ガソリンだけでは絶対に運転しないでください。
- ・長期間保管して古くなった燃料は使用しないでください。故障の原因になります。
- ・燃料タンクにゴミなどの異物が入りますと、故障の原因になります。ゴミなどが入らないように気をつけてください。

2. スイッチの操作

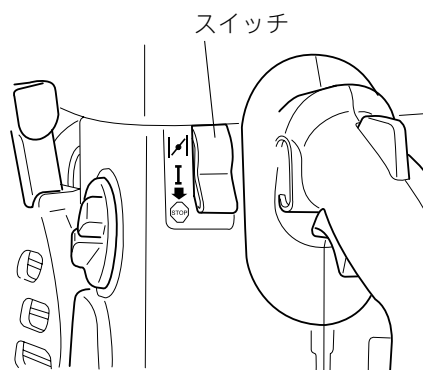
- ・本機は、スイッチが3段階に切り替えれるようになっています。

🔌 チョーク

I 運転

🛑 停止

- ・スイッチの機能をよく理解してお使いください。



3.始動

⚠警告

燃料の給油をした場所でエンジンを始動させないでください。すくなくとも3m以上離れてください。

- ・引火、火災の原因になります。

⚠注意

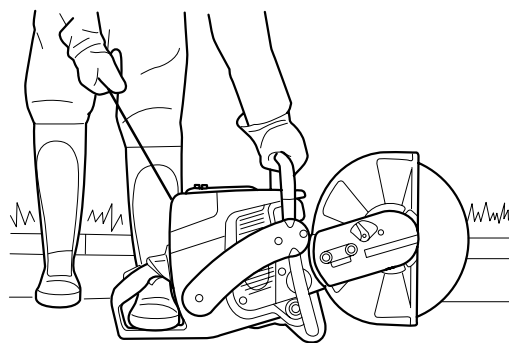
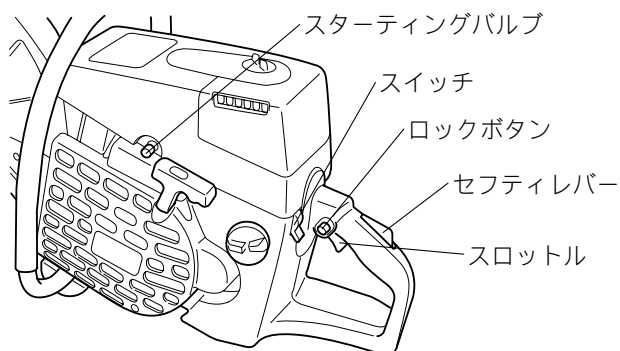
エンジンを始動させる前に、刃物類が地面やその他の障害物に触れていないことを確かめてください。

- ・刃物類が地面やその他の障害物に触れていると事故の原因になります。

エンジンが始動すると同時に刃物が回転します。周囲の人や障害物に十分注意してください。

1) エンジンが冷えている場合の始動

1. スイッチを **Ⅰ** (チョーク) の方向に倒します。
2. セフティレバーを押さえたままスロットルを引いて、ロックボタンを押します。そのままスロットルを静かに離してください。
スロットルは少し引いた位置で固定されません。
3. スターティングバルブを押します。
4. 後ハンドガードを足で押さえ、片手で前ハンドルをしっかり押さえます。
5. スタートハンドルを勢いよく引き出し、最初の爆発音がするまで繰り返してください。
6. 爆発音がしたら、スイッチを **Ⅰ** (運転) の位置に倒し、再びスターティングバルブを押込んでスタートハンドルを数回引いて始動させてください。



7. エンジンが始動しましたら、直ちにスロットルを引いてスロットルのロックを解除してください。

◎暖気運転

- ・エンジンが始動しましたら1~2分間スロットルを引いたり戻したりを繰り返して暖気運転してください。
- ・エンジンの回転が安定し、低速から高速回転にしたときに、滑らかに加速するようになれば暖気運転完了です。


2) エンジンが暖まっている場合の始動

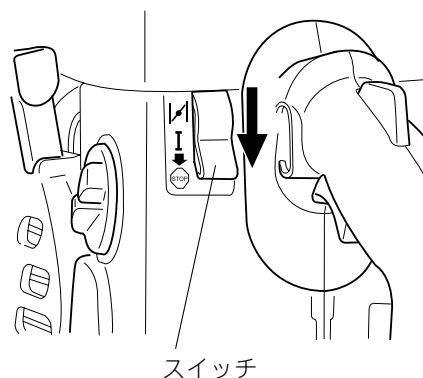
- ・始めからスイッチを **Ⅰ** (運転) の位置に倒し、上記1) の"以降の操作を行ってください。

注

- ・ チョークの位置にしたまま、スタータハンドルをいつまでも繰り返して引き続けると、燃料を吸い込みすぎて始動しにくくなります。
- ・ 燃料を吸い込みすぎたときは、スパークプラグをはずして、スタータハンドルをゆっくり数回引いて余分な燃料をだしてください。また、スパークプラグの電極部を乾かしてください。
- ・ スタータハンドルを最後まで引かないでください。ロープの寿命が短くなります。また、スタータハンドルは急に手放さず静かに戻してください。
- ・ 無負荷高速運転（空ふかし）はエンジンの寿命をちぢめますのでむやみにしないでください。

4. 停止

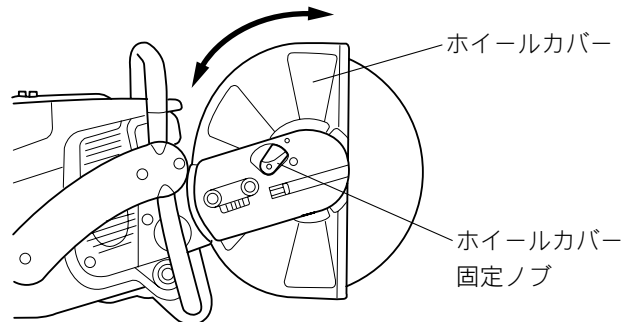
- ・ 機械を停止させるときは、スロットルを戻し、スイッチを （停止）の位置に倒してください。



切断作業

1. ホイールカバーの調節

- ・ 固定ノブを右いっぱい倒し、カバーの手前
端ができる限り切断材料に近づくようにカバ
ーを回転させてください。
- ・ 調節後は、固定ノブを左に倒し、固定ノブが
左いっぱいに戻るまでカバーを少しどちらか
に回転させてください。



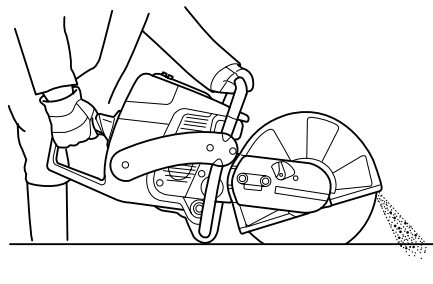
2. 切断方法

⚠ 警告

切断中に機械をこじたり、強く押さえたり、無理な操作をしないでください。

- ・ 機械に強い反発力を生じたり、また刃物類が破損し、けがの原因になります。

- ・ エンジンを始動させてください。
- ・ ハンドルを両手でしっかり握り、中速で切断
材料に最初の切り込みを入れてください。
次にスロットルを全開にして、本機を静かに
手前に引きながらまっすぐ切断してくださ
い。
- ・ 切断が終了しましたらスロットルをもどし、
エンジンを停止させてください。



△注意

点検整備するときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。またスパークプラグからプラグキャップをはずしてください。

- ・停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による事故の原因になります。

注

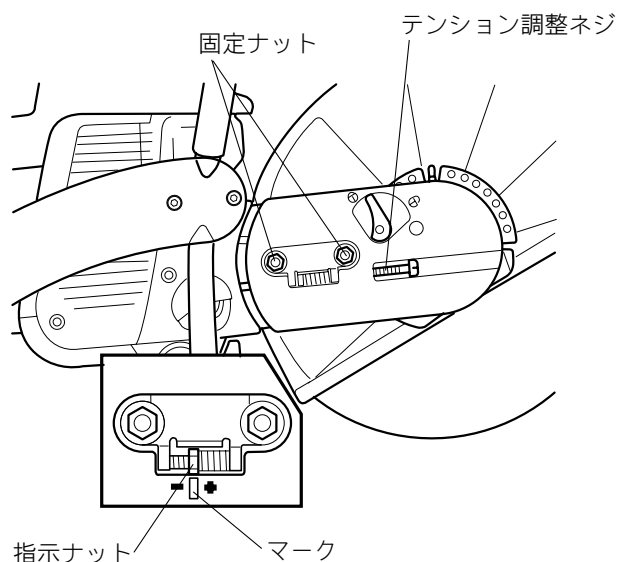
- ・点検整備するときは、本機の汚れを落とし、ゴミやほこりのかからないきれいな場所で行なってください。

1. Vベルトの張り調整

- ・切断作業中に切断砥石が簡単に停止するような場合は、Vベルトの張り具合が弱くなっています。このような場合は、次の手順で調整してください。

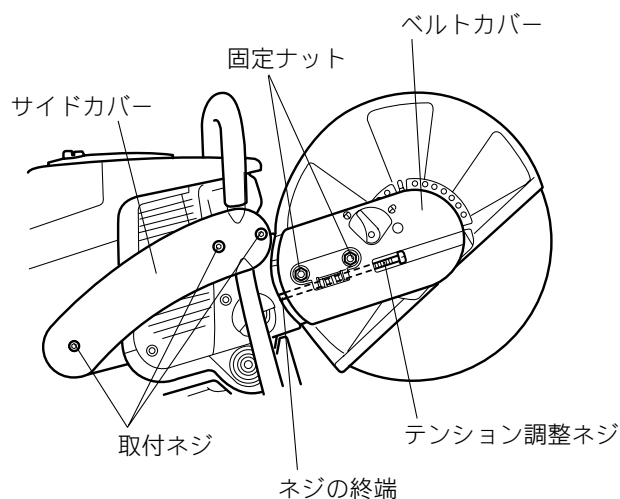
1. ベルトカバー固定ナットを緩めてください。
2. テンション調整ネジを、指示ナットがマークの位置にくるまで右（時計方向）へ回してVベルトを張ってください。
3. Vベルトを張り終えたらベルトカバー固定ナットをしっかりと締め付けてください。

- ・Vベルトの張りを調整しても、作業中に切断砥石が簡単に停止したり、またVベルトが切断した場合は新品と交換してください。



2. Vベルトの取り替え

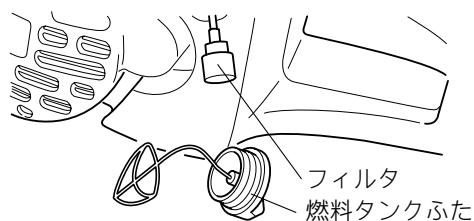
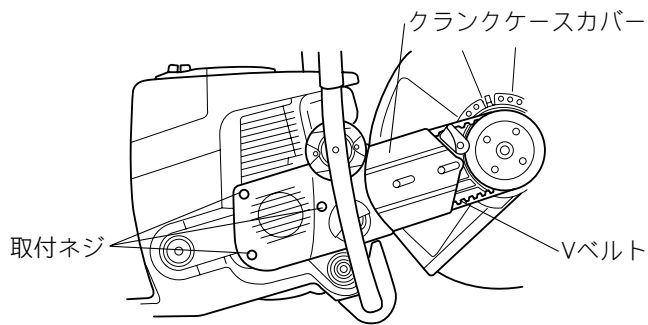
1. 固定ナットをゆるめ、テンション調整ネジをネジの終端が見えるまで、左に回します。
2. 固定ナットをはずし、ベルトカバーを取り外します。
3. 3本の取付ネジをはずし、サイドカバーを取り外します。
4. さらに3本の取付ネジをはずし、クランクケースカバーを取り外します。
5. 古いVベルトを取り除き、新しいVベルトをとりつけ、クランクケースカバー、サイドカバー、ベルトカバーの順に組みつけます。
6. 「Vベルトの張り調整」の要領で、張り具合を調整してください。



3. 燃料タンクフィルタの清掃と 取り替え

・燃料タンクフィルタがつまるとエンジン不調やエンジン故障の原因になります。定期的な点検してください。

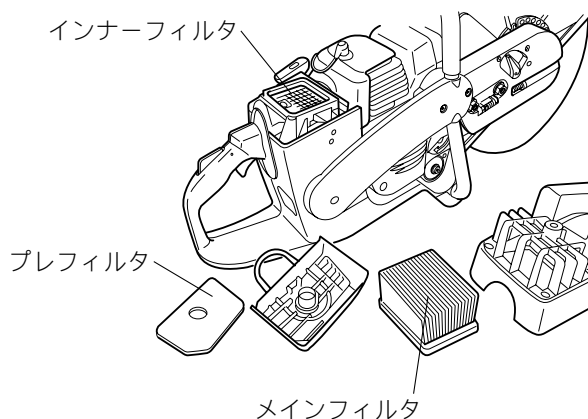
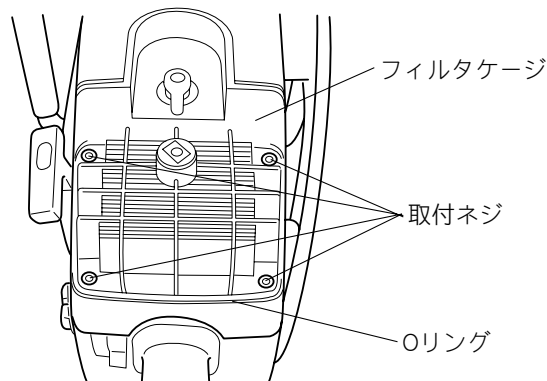
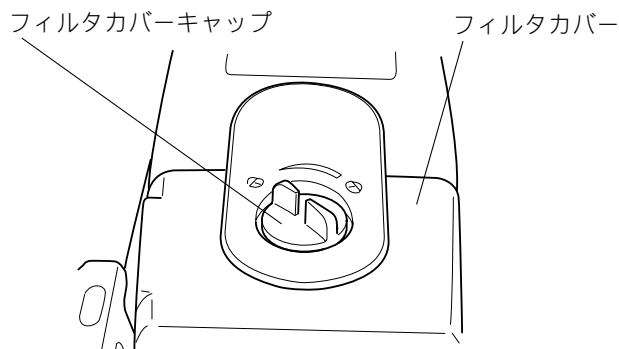
- 1.燃料タンクのふたをはずしてガソリンを抜いてください。
- 2.次に針金などを使ってフィルタを燃料注入口から引き出し、ガソリンでよく洗ってください。
- 3.汚れがひどいときは、燃料管からフィルタを引き抜いて新品と交換してください。



4. エアフィルタの清掃と取り替え

・エアフィルタが目づまりするとエンジン不調の原因となります。作業終了後には、次の要領で清掃してください。

- 1.フィルタカバーキャップを左に回し、フィルタカバーを慎重にはずしてください。
- 2.取付ネジをはずし、フィルタケースをとりはずし、Oリングを点検してください。
- 3.メインフィルタ、インナーフィルタ、プレフィルタを取りはずしてください。
- 4.インナーフィルタ、プレフィルタは、軽く叩いたり、吹いたりしてゴミやほこりを落としてください。また、定期的に石けん水でよく洗いよく乾かしてください。
- 5.メインフィルタは、軽く叩くかブラシを使うかまたはコンプレッサを使用してゴミやほこりを落としてください。コンプレッサを使用するときは、メインフィルタの内側から空気を吹き付けてください。水洗いはしないでください。
- 6.フィルタの清掃が終わりましたら、プレフィルタをフィルタカバーに向きを合わせてとりつけ、インナーフィルタ、メインフィルタ、フィルタケースの順でとりつけたあと取付けネジで固定し、フィルタカバーを取り付け、フィルタカバーキャップを右に回して固定してください。

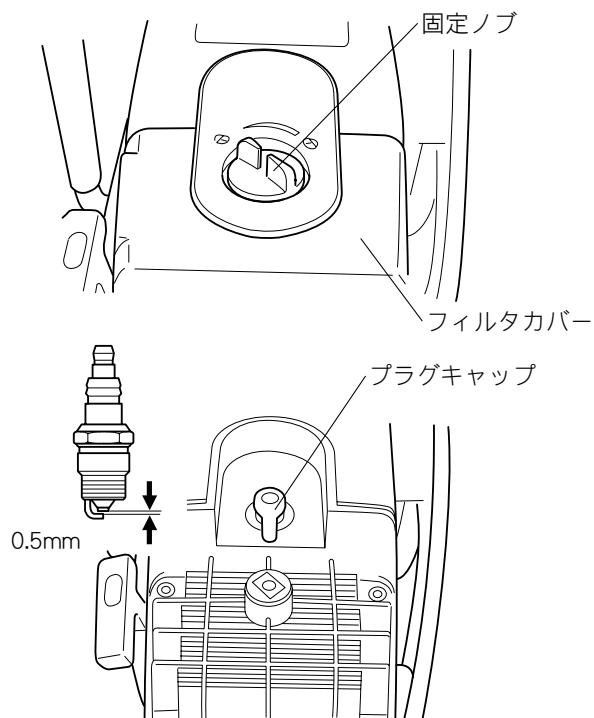


注

- ・ぼろぼろになったり破損したフィルタは、新品と交換してお使いください。
- ・フィルタはガソリンなどの油で洗わないでください。

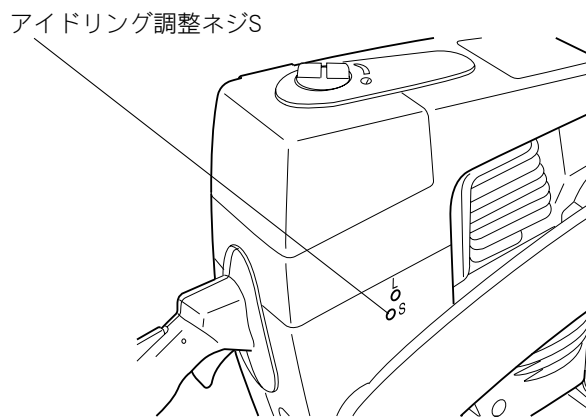
5. スパークプラグの点検と整備

1. フィルタカバーをはずしてください。
" プラグキャップをはずし、スパークプラグをはずしてください。
2. 電極の隙間が0.5mmになっているか点検してください。もし広がりすぎたり、狭すぎる場合は調整してください。
3. カーボンが溜まったり、汚れている場合はきれいにしてから取り付けてください。またひどく摩耗したり、焦げているものは新品と交換してください。
4. スパークプラグ点検後は、プラグキャップを取り付けフィルタカバーを固定してください。



6. アイドリングの調整

- ・キャブレタは工場出荷時に調整済みです。アイドル調整以外は調整しないでください。もし調整が必要になりましたら、お近くのマキタ直営事業所にお申しつけください。
- ・エンジン始動時に砥石が回転したり、スロットルレバーを砥石停止位置に戻し、アイドルリング状態にしても砥石が回転しつづける場合は異常です。
このような場合には次の要領でアイドルリング調整を行ってください。
- ・調整は図のアイドルリング調整ネジSを回してください。調整ネジSは、右へ回すと回転が上がり、左へ回すと回転が下がります。調整が困難な場合は、最寄りのマキタ直営事業所にお申しつけください。



メンテナンス表

項目	点検作業	時期	
ホイール、締付ボルト、ホイールカバー	目視点検	作業前	
スロットル系統	機能点検	作業前	
エア フィル タ	メインフィルタ	軽く叩くかエアを吹き付けて清掃、または交換	作業終了後
	インナーフィルタ	軽く叩くかエアを吹き付けて清掃、または洗浄	作業終了後
	プレフィルタ	軽く叩くかエアを吹き付けて清掃、または洗浄	作業終了後
スパークプラグ	目視点検…清掃、調整、または交換	適宜	
Vベルト	摩耗状況を目視点検（交換時、張りすぎに注意）	作業前	
燃料タンクフィルタ	目視点検、汚れに応じて交換	適宜	
ボルト、ナット類	目視点検、補修	作業前	

- ・ ご使用になる部品、消耗品は指定の純正部品をご使用ください。

格納方法

⚠警告

燃料を抜くときは必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

- ・ 停止直後では、引火や火災、やけどの原因になる恐れがあります。

⚠注意

長期間ご使用にならないときは、燃料を全部抜き乾燥したきれいな場所に格納してください。

- ・ 燃料タンクのふたをはずして、燃料を全て抜き、ふたを締めなおしてください。
- ・ エンジンが停止するまで、運転させてください。
- ・ スパークプラグをはずし、その穴からエンジンオイルを数滴たらしてください。
- ・ スタータハンドルをゆっくり引き、エンジン内にエンジンオイルを行きわたらせ、スパークプラグを取り付けてください。

全国に広がるアフターサービス網

お買い上げ商品のご相談は、最寄りのマキタ登録販売店もしくは、下記の当社営業所へお気軽にお尋ねください。

事業所名	電話番号	事業所名	電話番号	事業所名	電話番号
札幌支店	〈011〉(783) 8141	足立営業所	〈03〉(3899) 5855	東大阪営業所	〈06〉(6746) 7531
札幌営業所	〈011〉(783) 8141	大田営業所	〈03〉(3763) 7553	関西物流センター	〈0725〉(46) 6715
旭川営業所	〈0166〉(29) 0960	江戸川営業所	〈03〉(3653) 5171	南大阪営業所	〈0725〉(46) 6611
釧路営業所	〈0154〉(37) 4849	多摩営業所	〈042〉(384) 8411	奈良営業所	〈0742〉(61) 6484
函館営業所	〈0138〉(49) 9273	立川営業所	〈042〉(542) 1201	橿原営業所	〈0744〉(22) 2061
苫小牧営業所	〈0144〉(68) 2100	横浜支店	〈045〉(472) 4711	和歌山営業所	〈073〉(471) 4585
帯広営業所	〈0155〉(36) 3833	横浜営業所	〈045〉(472) 4711	田辺営業所	〈0739〉(25) 1027
北見営業所	〈0157〉(26) 9011	川崎営業所	〈044〉(811) 6167	沖縄営業所	〈098〉(874) 1222
仙台支店	〈022〉(284) 3201	平塚営業所	〈0463〉(54) 3914	兵庫支店	〈0794〉(82) 7411
仙台営業所	〈022〉(284) 3201	相模原営業所	〈042〉(757) 2501	三木営業所	〈0794〉(82) 7411
古川営業所	〈0229〉(24) 0698	湘南営業所	〈0466〉(87) 4001	尼崎営業所	〈06〉(6437) 3660
青森営業所	〈017〉(764) 4466	静岡支店	〈054〉(281) 1555	神戸営業所	〈078〉(672) 6121
八戸営業所	〈0178〉(43) 3321	静岡営業所	〈054〉(281) 1555	姫路営業所	〈0792〉(81) 0204
盛岡営業所	〈019〉(635) 6221	沼津営業所	〈055〉(923) 7811	広島支店	〈082〉(293) 2231
水沢営業所	〈0197〉(22) 5101	浜松営業所	〈053〉(464) 3016	広島営業所	〈082〉(293) 2231
郡山営業所	〈024〉(932) 0218	甲府営業所	〈055〉(276) 7212	福山営業所	〈084〉(923) 0960
いわき営業所	〈0246〉(23) 6061	金沢支店	〈076〉(249) 5701	三原営業所	〈0848〉(64) 4850
新潟支店	〈025〉(247) 5356	金沢営業所	〈076〉(249) 5701	岡山営業所	〈086〉(243) 4723
新潟営業所	〈025〉(247) 5356	七尾営業所	〈0767〉(52) 3533	宇部営業所	〈0836〉(31) 4345
長岡営業所	〈0258〉(30) 5530	富山営業所	〈076〉(451) 6260	徳山営業所	〈0834〉(21) 5583
山形営業所	〈023〉(643) 5225	高岡営業所	〈0766〉(21) 3177	鳥取営業所	〈0857〉(28) 5761
酒田営業所	〈0234〉(26) 3551	福井営業所	〈0776〉(35) 1911	松江営業所	〈0852〉(21) 0538
秋田営業所	〈018〉(863) 5205	岐阜支店	〈058〉(274) 1315	高松支店	〈087〉(841) 2201
宇都宮支店	〈028〉(634) 5295	岐阜営業所	〈058〉(274) 1315	高松営業所	〈087〉(841) 2201
宇都宮営業所	〈028〉(634) 5295	多治見営業所	〈0572〉(22) 4921	徳島営業所	〈088〉(626) 0555
小山営業所	〈0285〉(25) 5559	松本営業所	〈0263〉(25) 4696	松山営業所	〈089〉(951) 7666
水戸営業所	〈029〉(248) 2033	長野営業所	〈026〉(225) 1022	宇和島営業所	〈0895〉(22) 3785
土浦営業所	〈029〉(821) 6086	上田営業所	〈0268〉(22) 6362	高知営業所	〈088〉(884) 7811
関東物流センター	〈048〉(771) 3451	飯田営業所	〈0265〉(24) 1636	福岡支店	〈092〉(411) 9201
埼玉支店	〈048〉(771) 3462	名古屋支店	〈052〉(571) 6451	福岡営業所	〈092〉(411) 9201
さいたま営業所	〈048〉(777) 4801	名古屋営業所	〈052〉(571) 6451	北九州営業所	〈093〉(551) 3481
川越営業所	〈049〉(222) 2512	一宮営業所	〈0586〉(75) 5382	飯塚営業所	〈0948〉(26) 3361
熊谷営業所	〈048〉(521) 4647	東名古屋営業所	〈0561〉(73) 0072	久留米営業所	〈0942〉(43) 2441
越谷営業所	〈0489〉(76) 6155	知多営業所	〈0569〉(48) 8470	佐賀営業所	〈0952〉(30) 6603
前橋営業所	〈027〉(232) 5575	岡崎営業所	〈0564〉(22) 2443	長崎営業所	〈095〉(882) 6112
高崎営業所	〈027〉(365) 3688	豊橋営業所	〈0532〉(46) 9117	佐世保営業所	〈0956〉(33) 4991
両毛営業所	〈0276〉(46) 7661	四日市営業所	〈0593〉(51) 0727	熊本支店	〈096〉(389) 4300
千葉支店	〈043〉(231) 5521	津営業所	〈059〉(232) 2446	熊本営業所	〈096〉(389) 4300
千葉営業所	〈043〉(231) 5521	伊勢営業所	〈0596〉(36) 3210	八代営業所	〈0965〉(43) 1000
市川営業所	〈047〉(328) 1554	京都支店	〈075〉(621) 1135	大分営業所	〈097〉(567) 3320
成田営業所	〈0478〉(73) 8101	京都営業所	〈075〉(621) 1135	宮崎営業所	〈0985〉(26) 1236
木更津営業所	〈0438〉(23) 2908	福知山営業所	〈0773〉(23) 7733	鹿児島営業所	〈099〉(267) 5234
柏営業所	〈04〉(7175) 0411	大津営業所	〈077〉(545) 5594	沖縄営業所	大阪支店の欄をご覧ください。
東京支店	〈03〉(3816) 1141	彦根営業所	〈0749〉(22) 6184		
東京営業所	〈03〉(3816) 1141	大阪支店	〈06〉(6351) 8771		
中野営業所	〈03〉(3337) 8431	大阪営業所	〈06〉(6351) 8771		

株式会社マキタ

愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502

TEL.0566-98-1711 (代表)